かな文字探究に情熱

高い格調、流れる美しさ

かな文字は美しく、そして基礎は大事に―というのが保科春月さんの日ごろのモットーである。現在、釧路 書道連盟の 副会長として、道東展、市民展運営委員審査員として重責にある身だが、始めからかな文字の探究に情熱を燃やしてきた。

春月さんは大正十二年釧路市に生まれる。書をすすめたのがお母さんの華道教授の残月さん。我が子の書くたどたどしい字のなかに今日の春月さんを見たのだろうか小学校三年のとき工藤柏堂さんに師事。その頃「きれいに書いているが迫力がない。これはいくじがないからだ―と、夜中に起こして練習させたり、塾へは休まずに通わせた」というお母さんの励ましがある。全書会、林春石さんを経て、春月さんのかな文字一筋の道に力を与えてくれたのは桑原翠邦氏との出会いだろう。「細かいことに力を 借してくれたこ とが、どれほどの助けになったことか」と語る春月さんも、その頃から積極的な書道へ の精進を 志したようだ。

春月さんの書風を、山田北翠さんは「永い間、古典で培われた格調の高さ。かな文字の流れる美しさは地味ながら気品がある」と批評する。早くから全国書宗院展の無鑑査員に推されており、かな文字の美しさは定評があった。

また、自己の研さんの場として春月会を主宰し、その静かな人柄を慕われて水吐会、如月会、成人学校の講師など忙しい毎日を過ごしてきた。中央の新風とはかかわりなく、ひたすら古典に取り組んできた姿は、楚々とした風情のなかに強い精神を感じさせる。「いままで私を支えてくれた方に、心から感謝するばかり」と、受賞の感想もすがすがしい。五十五歳。釧路市浦見一の一の六

書道 保科春月さん

かな書道で受賞した保科春月さん